

# 日本養護教諭養成大学協議会オンラインミーティング報告 —新型コロナウイルス感染症対策のなかで、 養護教諭養成大学における教育の質をどう保証するか—

## 第1分科会報告 「養護実習・教育実習」10時～11時50分

担当：大川尚子（京都女子大学），下村淳子（愛知学院大学），鈴木裕子（国士館大学）

第1分科会では、2つのグループに分かれ、まず「養護実習」の現在の状況や課題等をチャットで書き込んでいただいた後、各大学の状況、その対応や工夫などを交流しました。一部の地域を除き、ほとんどの大学が実習の延期や短縮を余儀なくされていることがわかりました。

### 1 実習実施上の課題

地方の状況によっては実習が始まっているところもありましたが、2週間前からの自宅待機と健康観察記録のほか、フェイスシールド、ガウン、手袋、手指消毒剤等の準備が必要な学校の例や、学生が実習中に発熱した事例などが紹介され、実習が実施できても、様々な課題があることがわかりました。

### 2 実習延期になった場合の課題

実習が先送りになることで、実習前後の2週間の健康観察期間を考慮すると、後期の授業や看護の総合実習、教職実践演習との兼ね合いに悩む声が多く挙げられました。また後期に確実に実習できるのか、中止になる可能性への不安も挙げられました。

後期のカリキュラムへの影響を最小限にするために、コロナの影響で短縮された夏休みの前後や土日、年末年始に授業を実施するなどの例が紹介されました。学生によって実習時期にばらつきがあり、実習終了が遅い学生もいることから、教職実践演習は2月上旬になるのではないかとの見通しも紹介されました。

### 3 実習短縮になった場合の課題（学内実習の内容、学校体験活動の活用等）

実習短縮になった場合の不足分の補填についての課題が多く挙げられました。そして実習の代替として、模擬授業の実施、模擬保健室での養護教諭の1日のシミュレーション、仮想学校を想定した学校保健計画や保健室経営や事例の検討、大学の医務室での実習、学生・教職員の健康診断補助などのアイデアが紹介されました。

また学内実習自体が困難な状況を想定し、オンラインによる授業研究や事例検討等を工夫して実施することも検討している例が紹介されました。

学校体験活動（学校ボランティア活動）で代替する場合、その評価も含めて、事前事後指導が重要になるとの意見があり、学生の製作物やその評価の聞き取りで評価するなど、事前に指標を明確化している例が紹介されました。

さらに、実習に際して優先して実施すべき内容は何か、最低限やるべき実習の内容を協議会で検討してほしいといった意見や、今後、看護の臨地実習のオンデマンド教材のように、養護実習に関する教材化の共同開発が必要であるというご意見もありました。

各大学の工夫点や共通した悩みを具体的に共有でき、たいへん有意義な時間となりました。一方で学内では学べないことを現場で学ぶという学外実習の考え方について発想の転換の必要性も感じられました。

校の皆様には、活発な意見交換に感謝申し上げます。